知恵の樹

No. 184 2014. 5. 21

町田の図書館活動をすすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12　増山方
〒194-0022　FAX　042-722-1243

「第３回　町田としょかん子どもまつり」を 終えて

期間：2014年３月27日(木)～30日(日)

場所：町田市立図書館全館・市民文学館　主催：子どもまつり実行委員会

2013 年度の図書館事業として、市民協働の表記の会が開催され、去る4月 22 日(火)に報告＆反省会が行われて第3回実行委員会は幕を閉じた。第4回に繋げていけたらという思いで、第3回の報告と共に改めてこの事業の行程を振り返ってみたい。

中央図書館、開館 20 周年フェスタ

「国民読書年」でもあった 2010 年、町田市立図書館中央館が開館 20 周年を迎えたのを記念して、「フェスタ　ぶらり ライブラリー in まちだ」が市民協働主催として開催された。当初、図書館が 20 周年記念の祭りをやることになったと、本会会員でもある当時館長の守谷氏が定例会で話された時、市民もぜひその祭りに参画し、共に 20 周年を祝いたい、という話になった。図書館側は、その要望をすぐに受け入れてくれ、市立図書館に団体登録をしている代表者に呼びかけ、参加団体を募り、「実行委員会」を立ち上げて、2010 年 11 月 23 日(祝)～28 日(日)、「国民読書年」・中央図書館開館記念事業が実施された。

その時の反省会で、市民協働の祭りを一過性のものにするのではなく引き継いでいこうということになり、当時児童サービス担当の渡部職員が積極的に動いて、子ども対象の祭りとして、翌 2011 年、第1回としょかん子どもまつりが、中央図書館で開催されたのである。

市民協働というこの祭りは、毎月、市民と職員が一堂に会して話し合いを持つ本会(町田の図書館活動をすすめる会)の情報交換から生まれたと言っても過言ではないだろう。

第 1 回・2 回 としょかん子どもまつり－本はともだち

中央図書館の児童担当が、1年前から会議室や展示スペースを確保し、登録団体への呼び掛けや事務局を担うなどの努力の下、祭りが成されていた。

しかし、市民の側から見ると、図書館側の協力体制はおろか、他の部署の職員の祭りに対する共通認識も余り感じられず、「児童が勝手にやれば」といった雰囲気が漂っていたような、そんな中での、予算も全くないという運営体制での出発であった。

第1回は、カラー刷りのポスター制作のお金を参加団体が少額ずつだが出し合い、市民協働というよりも、やらせてもらえるという感覚が前面に出ていたようで、児童担当職員にはかなり負担を強いた祭りであったのではと思う。

第2回の時、何とか全館で祭りを行えるようにしたいと願って実行委員長を引き受けたが、木曽山崎図書館が普段のおはなし会を祭りイベントとして参加することで手を挙げて下さり、地域館1館が加わった。変わらず市の予算無しで、参加団体企画と実行委員会企画での4日間の祭りが行われた。

2回目の反省会でも、子どもが一人ででも参加できるよう地域館全館のお祭りにして欲しい旨強く要望。それとともに、協働への呼びかけが図書館の登録団体に限定していたため、すすめる会も団体登録をして祭りに参加しようという事になった。

関連記事〈会報「知恵の樹」:第 1 回 163・164・165・167 号、第 2 回 172・173・175 号、第 3 回 178・182 号／参照〉

第3回　市立図書館全館、子どもまつり

職員数が減って仕事量が増えている図書館にとって、また、職員内に祭りに対する理解が非常に乏しい中で、大変なことだとは思ったが、今年度の説明会の席上(7/16(火))、文学館をも含めた全館が開催に踏み切って下さったことが報告された。そして第

1回打合せ(8/20/木)には、図書館7館・文学館の担当職員全員と 12 参加団体代表とが、一堂に会しての祭りに向けての具体的な話し合いに入った。

参加団体 〔マザーリーフ　青山タエ/おはなしはすの実　福田淑子/ピッピのくつした　武田祐子/おはなひもへえ　畠中恭子/かえで文庫　砂川とき江/柿の木文庫　谷釜房子/野津田・雑木林の会　久保礼子/町田の学校図書館を考える会　清水陽子/町田ブックトークの会　丸岡和代/ NPO 法人まちだ語り手の会　増山正子/町田の図書館活動をすすめる会　玉目哲廉〕

第2回の祭り同様、参加団体は、それぞれイベント内容・希望日時・場所の企画を出しあって会議にて調整し合い、実行委員会企画としては、団体の枠を外して語り手がMIXされたおはなし会をするとともに、もっと、広い層の人たちにも図書館に足を運んでもらおうという事で、外国の絵本を自国の人に読んでもらっての交流会「絵本で国際交流」や、本を紹介するコミュニケーションゲーム「ビブリオ・バトル」を新たな企画としてやることになった。(囲み参照)

実行委員会企画は、7人のコアスタッフが中心になり、全体会議4回の他に何度も集まり、またメールでの情報交換を行うなどして、中央図書館児童スタッフとともに実施にこぎつけることができたのである。

絵本で国際交流　29 日(土) 10:30～12:30
文学館大会議室 (43 名)

協力:町田国際交流センター、国士舘大学、
西東京朝鮮第二初中級学校

【出演】

中国:李佳(リカ)さん、劉嘉(リュウ・カキ)さん
朝鮮:金玲那(キン・リョンナ/5年生)さん
李香愛(リ・ヒャンエ)さん
辛龍太(シン・リョンテ)さん
＊校長先生
アメリカ:ミッチェル・ラングさん
アーロン・スティールさん
アイスランド:ヨーナ・ビョルク・ヨンスドッティルさん
ベルグリンド・シグルスヴェインスドッティルさん
キルギス:タクィルバシェワ・ケレザさん
ジリディスさん

キリギス共和国からのお二人は、国旗や住居ゲルの模型やコムスという三弦楽器、口琴を紹介。人口 100 万人で、国土の 98%が山だそうです。「力がある人はたくさん本を読む人」、印象的な言葉でした。

アメリカの男子学生二人は、ドクター・スースの絵本を持って登場。そしてみんなで体を使って日本でも知られている歌で遊んだ。

紙芝居をする李佳さん

「屋根の上に咲いた花」を読むアイスランドからの留学生。琵琶湖の 49 倍の広さのインククル湖など、アイスランドの美しい景色をアイパットの画面で紹介。アイスランドへ行くには、タシケント・トルコ・モスクワで乗り換えるのだそうです。

教員をしている辛龍太さんが、朝鮮半島に古くから伝わるサムルを紹介。チャンゴ(杖鼓)/雨・プク(太鼓)・雲、チン(銅鑼)・風、ケンガリ(鉦)・雷、の4物楽器をたたいて音を聞き、音でそれぞれの楽器が何を表しているかをあてて楽しむ。李香愛さんは、「雨が降ると青がえるがよくなく」という、日本の昔話「ホトトギスの兄弟」に似た朝鮮の民話を話してくださった。

ビブリオバトル

30 日(日) 13:30～15:30 中央図書館ホール

司会者 宮本皐さん(和光大学学生) 〈65 名〉

バトラーを紹介する宮本さん(左端)

≪公式ルール≫
1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる.
2. 順番に一人5分間で本を紹介する.
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う.
4. 全ての発表が終了した後「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い, 最多票を集めたものを『チャンプ本』とする.

参加者 9 名は、ジャンケンで発表順を決めバトルに臨んだ。

バトラー ＆ 紹介本

前 半

・高下裕子(タカシタ ユウコ/ピッピのくつした)
『旅猫リポート』 有川浩 著 文芸春秋社
◎武田流雨(タケダ ルウ/中1)
『宇宙を下りなすもの』 ブライアン・グリーン 思想社
・新海依子(シンカイ ヨリコ/高2)
『星町の物語』 太田忠司著 理論社 PHP 文芸文庫
・富永 龍介(トミナガ リュウスケ/高3)
『こそあどの森シリーズ』 岡田淳著 理論社
・武田 椿(タケダ ツバキ/高3)
『罪と罰』 フョードル・メートル・ドストエフスキー著 工藤清一郎訳 新潮文庫

後 半

・坂井 壮光(サカイ マサミツ/高2)
『鉄道マンの世界』 洋泉社 MOOK
◎山田大樹(ヤマダ ヒロキ/高3)
『ルリユールおじさん』 いせひでこ作 理論社
・尾留川朗 (ビルカワ アキラ/図書館館長)
『キュレーションの時代―「つながり」の情報革命が始まる』
佐々木俊尚著 ちくま新書 筑摩書房
・芝野 寛了(シバノ ヒロアキ/高1)
『光圀伝』 冲方丁 著 角川書店

バトラーは後ろ向きに。参加者が、読みたいと思った本に手を挙げ、チャンプ本(◎印)が決まる

全館の担当スタッフと実行委員全員が出席して開かれた反省会では、事務局(中央児童担当職員)より、各イベントの参加人数(4日間総計 1,280 名)とアンケート集計の実施報告がなされ、反省点や祭りの評価について話し合った。楽しかったという声が一番多かったが、チラシ配布をもっと早く、お話と本を結びつけることの大切さを認識した、もっと集客を考えたプログラムのたて方を、子どもという冠をとっても良いのではないのか、増税前で図書館の来館者がとても少なく呼び込みも出来なかった、と言った様々な反省点が出た。

おはなし会で関わった人たちは、普段、図書館が個人ボランティアで行われているため、打ち合わせ等が上手くいかなかったという感想も聞かれた。

第4回図書館まつりの説明会、打ち合わせ会が、6月24 日(火)に開かれることになったが、その時には各館でボランティア登録している人がお祭りに協力してくれるかどうか決まるという。

「図書館まつり･･･その可能性を探る」(本会報 175 号)に〝市民と協働するには、地域館と団体・市民との繋がりがなければならない。町田の場合、残念ながら各館協働体制が取れていないのが、一つのネックになっている。仮に、地域館に登録しているお話ボランティアに働きかけて祭りをやるとしても、個人ボランティアの協働体を作ることから始めなければならない〟といった旨の事を書いたが、市民がしっかり図書館に関わることで、委託や指定管理という、営利を目的とする企業が図書館運営を担うという事態に警鐘を鳴らすのではないか。

地域館に登録している個人ボランティアが、「○○図書館ボランティア」として、互いに交流・研鑽を図るグループとして機能するならば、図書館にとっても、何倍も仕事がしやすくなるだろう。そして、おはなし会を楽しみに図書館に足を運ぶ子どもが増えるに違いない。

課題多き市民協働図書館まつりだが、少しずつ、市民に浸透していって、図書館が大好きな人たちが増えていくことを願っている。

(第 2･3 回図書館子どもまつり実行委員長 増山正子)

広瀬恒子さん講演会「どの本 読もうかな !?」
2013 年度 子どもの本をふりかえって

報告

すすめる会恒例の表記講演会は、町田市立図書館第 3 回子どもまつり(27 日(木)～30 日(日))に参画して、30 日(日) 10 時 30 分～12 時・中央図書館ホールにて開催。子どもの本をとりまく社会状況と共に、30 冊余の新刊おすすめ本を熱く紹介して下さった。(参加者 52 名)

◇ 児童書新刊発行 **総点数は、3080 点**(前年 2812 点/268 点の減少)で、その内、**絵本 1062 点**(34.5%)・**文学 652 点**(21.2%)。紙媒体の売上は、停滞している。全体的印象としてエンタメ要素が広がり、高学年作品にキラキラものが増えている。

◇絵本 子どもに圧倒的人気の「アンパンマン」の作者「やなせたかし」さん、シンプルなありふれた言葉を生きとしいけるものとした詩人「まどみちお」さんが逝去。

📖 **あかちゃん絵本・・・**三浦太郎の『くっついた』、とよたかずひこ氏の今までのイメージに頓着しないスーパーあかちゃん**「ももちゃん し～」**(童心社)。

📖 **幼児絵本・・・『でんしゃが きた』**(竹下文子作・鈴木まもる絵・偕成社)は、走っていく場面をめくりながら、風景とともにストーリー性を楽しめる。

📖 **ストーリー性のある絵本として、『だるまのしゅぎょう』**(ませぎりえこ文 蔡皋絵)、パンを焼く職人さん**『プレッツェルのはじまり』**(エリック・カール作 アーサー・ビナード訳 偕成社)、母親が大事にしているボタン**『ボタン』**(森絵都作 スギヤマカナヨ絵 偕成社)、**『キリンがくる日』**(志茂田景樹文 木島誠悟絵 ポプラ社)、格調高い絵のチベットの民話**『犬になった王子』**(君島久子文 後藤仁絵 岩波書店)、綱渡りをヒーローとして描くのではなく人間の内面を描いた**『つなのうえのミレット』**(エミリー・アーノルド・マッカーリー作・絵 津森優子訳 文溪堂)、活字を拾う職人になるという**『マッチ箱日記』**(ポール・フライシュマン文 ﾊﾞｸﾞﾗﾑ・イバトューリン絵 島式子・島玲子訳 BL出版)、道を作って欲しいとの子どもたちの願いに、議員さんへの請願書の書き方を教える図書館員、市民活動を子どもたちに伝えるという図書館の可能性を描いた**『道はみんなのもの』**(クルーサ文 モニカ・ド

ペルト絵　岡野富茂子・岡野恭介訳　さ・え・ら書房)、**『マリアンは歌う』**(パム・ムニョス・ライアン文　ブライアン・セルズニック絵　もりうちすみこ訳　光村教育図書)。

ノンフイックションが元気、意欲的なものが出ている。現実の川がどこから流れてきたのかを描く**『－日本の川－　よどがわ』**(村松昭作　偕成社)、カメラの力で未知の世界を知ることが出来る**『深海の超巨大イカ』**(NHKスペシャル深海プロジェクト取材班編　新日本出版社)。

◇よみもの

📖　**幼年童話**は、価値をアピール。一人で読んで情感がもてるものをという事でシリーズものが活発。寺村輝夫の「王さまシリーズ」、1990 年代のいとうひろし「おさるシリーズ」等、事件がおきたり友だちどうし何かがあるでもない、終わりがないシリーズから、主人公の存在感があり自分と共感して読もうというものに変わってきた。

比較的読まれている作家、最上一平の**「すすめ！近藤くん」**シリーズ、村上しいこの**「しのぶときよしのともだち」**、宮川ひろの**「かんぱい」**シリーズ、等ベテラン作家が健闘。

📖　**文学・・・**読み物は 200 点から 300 点。

<u>国内</u>では、ファンタジーで世界に羽ばたく、ストーリー性が波乱万丈、という作品ではなく、日常の生活を丹念に描いた写実的な作品に比較的力作があった。

『やさしい大おとこ』(ルイス・スロボドキン作・絵　こみやゆう訳　徳間書店)、裏山で拾った骨は狼の？　関心を抱いたものを確かめに **『きっとオオカミ、ぜったいオオカミ』**(山崎玲子作　かわかみ味智子絵　国土社)、広島の話 **『光のうつしえ』**(朽木祥作　講談社)、主人公は中学生で真面目なお話。説得ある筆力で、美しいシーンを盛り上げている見事な作品**『紙コップのオリオン』**(市川朔久子著　講談社)、記憶を風化させない民間活動を描いた**『星空ロック』**(那須田淳作　あすなろ書房)、知力を使って戦う平和的武将の青年時代までを描いた**『勘兵衛、駆ける』**(吉橋通夫作　講談社)、異年齢の子どもたちの会話で読ませる新しいキャラクター**『かさねちゃんに　きいてみな』**(有沢佳映著　講談社)、純粋の友情が伝わる**『ふたり』**（福田隆浩著　講談社)、ハンセン病の老人と孤独な中学生。人間としての自分の存在価値を持ちたい、人間としての矜持を持つものだなと思った **『あん』**(ドリアン助川著　ポプラ社)。

<u>海外</u>では、先生がどんなに子どもに影響を与えるか、子どもの側から先生を見る**『テラプト先生が いるから』**(ロブ・ブイエー作　ニシダ佳子訳　静山社)、スペイン、フランコ政権時代の**『日ざかり村に 戦争がくる』**(ファン・ファリアス作　宇野和美訳　堀越千秋画　福音館書店)、人付き合いのない男の子。舞台装置がユニークな**『ネコの目 から のぞいたら』**(シルヴァーナ・ガンドルフィ著　関口英子訳　岩波書店)、**『庭師の娘』**(ジークリート・ラウベ著　若松宣子訳　中村悦子絵　岩波書店)、

<u>NF</u> **『なぜ独裁はなくならないのか一世界の動きと独裁者インタビュー』**(千野境子著　国土社)、**『物語ること、生きること』**(上橋菜穂子著　瀧 晴巳構成・文　講談社)、

◇子どもと本をむすぶ活動から考えたいこと

望まれる資質、子どもの発達に応じた絵本を選択する力、文科省外郭団体が絵本専門士養成講座を始めようとしている。

・図書館の自由について・・・表現・読書の自由を守ること

・「抜本的教育改革」に向けた具体的提言への懸念／「自助・自立する国民、家族・地域社会・国への帰属意識を持つ国民、良き歴史・伝統・文化を大切にする国民・・・」を育成する。

・「学校司書法制化」については、専門性、仕事をする立場、位置づけの保証を裏付けるものとして一定の評価をする。最後に、パキスタンのマララさんの言葉 「一人の教師、一本のペン、1冊の本が世界を変えられる」を紹介。 約2時間、充実した講演会でした。　　(文責:増山)

ご紹介　**嘱託職員組合として、すすめる会に関わってくださる新メンバーです**

どうぞ、よろしくお願いします！

町田市立図書館嘱託員労働組合の執行委員となり、すすめる会の担当になりました、**鶴川駅前図書館の市川博子**です。

「町田の学校図書館を考える会」の会員なので、すすめる会の方々とのお付き合いは、かなり長いです。数年定例会にはご無沙汰してしまっていたので、嘱託労の執行委員として参加することになり、大変勉強させていただいております。

定例会の記録を担当させていただいておりますが、図書館と市民の橋渡し役に少しでもなれれば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

嘱託組合から新メンバーとして参加させていただく**堺図書館・高橋将貴**(まさき)と申します。

町田の図書館で働くのはまだ日が浅く、前は別の図書館で働いていました。とはいえ、地元は町田市なので町田の図書館の利用者としての期間も長く、司書としての自分と利用者としての自分がいます。すすめる会を通じて、その両方の目線からできる事を考えていけたらいいなと思っています。

『学校図書館交流会』

ブックトークと学校図書館についての情報交換

2014 年 6 月 7 日(土) 14:00～16:00

町田市民文学館ことばらんど　第 6 会議室

町田市内の学校図書館も全校でパソコン管理が始まり変貌を遂げようとしています。日々の図書館運営で欲しかった情報、困っていることなど情報交換をいたしましょう！
みなさんのご意見やご要望を是非お聞かせください。

問合せ:町田の学校図書館を考える会
清水(☎ 042-799-0467)

町田市立図書館人事異動

2014年４月１日付

職員 等

【転出】

横須賀秀男（市民文学館担当課長→子ども生活部子育て支援課子育て相談担当課長）

西小野由佳（中央図書館奉仕係→いきいき健康部保険年金課）

田中真貴（中央図書館奉仕係→政策経営部企画政策課）

【退職】

矢田良徳・田村俊二・谷澤 繁・大野惠市・武田和善（以上、中央図書館奉仕係）

佐藤金治・松田勝美（さるびあ図書館奉仕係）

柏平 敏（堺図書館奉仕係）

【転入】

河井康雄（生涯学習部図書館市民文学館担当課長←監査事務局課長）

江波戸恵子（中央図書館奉仕係担当係長/サービス←文化スポーツ振興部国際版画美術館管理係長）

廣瀬康典（さるびあ図書館奉仕係技能主査←下水道部下水道管理課管理係技能主査）

浅野和歌子（中央図書館奉仕係・/リクエスト・借用←市民部鶴川市民センター）

姫野淳二（鶴川地域図書館奉仕係/鶴川駅前←地域福祉部ひかり療育園）

石井健一（中央図書館庶務係/再任用←財務部資産税課長）

市川 修（中央図書館庶務係/再任用←都市づくり部公園緑地課計画係）

潮田志呂太（中央図書館奉仕係・AV/再任用）←子ども生活部児童青少年課担当係長）

長南清英（中央図書館奉仕係・整理/再任用←市民部鶴川市民センター）

菅川隆志（中央図書館奉仕係・リクエスト/再任用←経済観光部北部丘陵整備課担当係長）

中山憲一郎（鶴川地域図書館奉仕係・鶴川駅前/再任用←環境資源部環境保全課生活環境係）

【昇格】

中嶋 真(生涯学習部図書館統括係長・兼)生涯学習部図書館町田市民文学館担当係長←生涯学習部図書館町田市民文学館担当係長)

【館内異動、他】

和賀井ゆう子(中央図書館奉仕係担当係長/仮称忠生図書館準備担当←中央図書館奉仕係担当係長・ハンディキャップ)

中村郷子（中央図書館奉仕係/仮称・忠生図書館準備担当←中央図書館奉仕係・児童）

河合 篤(中央図書館奉仕係・ハンディキャップチーフ←中央図書館奉仕係・リクエスト借用)

吉光遼子(中央図書館奉仕係・リクエスト←堺図書館奉仕係)

黒田一郎（堺図書館奉仕係←鶴川地域図書館奉仕係/鶴川駅前）

渡部敬介（堺図書館奉仕係/再任用←中央図書館奉仕係・AV）

嘱託員（司書）

【退職】(3月 31 日付)

池田琴美・紺野佐和枝・深山千鶴子（中央図書館）

荒川依知（さるびあ図書館）

前田有美（鶴川地域図書館/鶴川駅前）

川崎恭子（市民文学館）

【採用】(4月1日付)

東野淑子（中央図書館奉仕係・サービス）

佐藤 彩（中央図書館奉仕係・借用）

鈴木優子（中央図書館奉仕係・ハンディキャップ）

松本小百合（さるびあ図書館奉仕係）

浅野陽子（鶴川地域図書館奉仕係/鶴川駅前）

山上絵美子（鶴川地域図書館奉仕係/鶴川駅前）

伊藤あや（市民文学館）

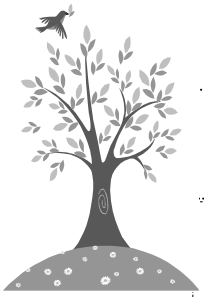
【館内異動】

野地恭子（中央図書館奉仕係・整理←鶴川地域図書館奉仕係/鶴川駅前）

橋本香苗（さるびあ図書館奉仕係←中央図書館奉仕係）

遠藤美子（さるびあ図書館奉仕係←金森図書館奉仕係）

梅谷信子（金森図書館奉仕係←さるびあ図書館奉仕係）



ひろば

定例会　4/16(水)

16:30～182 号印刷(伊・玉・丸・増・桃)・18:00～20:00 中央図書館中集会室

出席: 石井、市川、久保、高橋、多田、手嶋、増山、丸岡、桃沢、守谷、山口、渡辺

● 2013 年度・報告

会計(石井)・・・会員には収支決算報告書を配布／催促後の会費未納者は、退会扱いとする。

主な活動

講演会

・「図書館嘱託員は生き残れるか」 講師:上林陽治氏／2014/2/23(日) (37 名参加)

・「2013 年度新刊・児童本紹介」 講師:広瀬恒子氏／2014/3/30(日) (52 名参加)

図書館見学

・富山県内の図書館 5 館(小矢部市民、舟橋村立、市立、駅前こども、他)10/8(火)・9(水) (4 名参加)

・岡山県内図書館見学 6 館 (県立、市立、幸市立、等) 2014/3/13(木)・14(金) (9 名参加)

その他

・町田市立図書館第3回子どもまつりに参画(p1) 2014/3/27(木)～30(月) (実行委員:玉目哲廉)

・つづき図書館ファンクラブ・・・鶴川駅前図書館見学、その後すすめる会と交流 2014/1/15(水)

・会報「知恵の樹」(175 号～182 号)発行

● 2014 年度について

世話人選出

・代表…山口洋 ・副代表…久保・増山(兼事務局)

＊会則では、代表宅に事務局を置くとなっているが、負担が重いので、今年度は分担する。

町田市民文学館 児童文学講座 (保育付)

石井桃子～子ども時代の幸福感を永遠に～ 1

石井桃子の戦中戦後と水沢周

講師:尾崎真理子氏

(『ひみつの王国・評伝石井桃子』著者)

2014 年7月 12 日(土) 14:00～15:30

町田市民文学館 2F 大会議室

要:申し込み・6/18 必着(往復葉書に講座名・氏名・住所・電話番号・年代を明記)

無料

問合わせ:町田市民文学館 ☎042-739-3420

2014 年度 第３回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

6月 19 日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算 85 回)

＊町田ゆかりの作家 「中島信子」 山本由佳

＊太陽のおかあさん (ジプシーの昔話) 増田佳恵

＊ぶらんこ乗り (いしい しんじ作) 望木祐子

語り手はNPOまちだ語り手の会会員

直接会場へどうぞ！ 無料 保育有

(町田市民文学館☎042-739-3420)

・会計…石井 ・例会記録…高橋、市川

・会報発行 編集…増山 印刷室予約…吉岡 印刷…伊藤・丸岡・桃沢・多田、他

＊発行回数を減らしてはどうかと言う意見有り。無理なく出すことに。

・ML管理…鈴木 薫

・図書館友の会全国連絡会 ML 必要事項→会員 ML…手嶋(山口・増山)

・監査…守谷、渡辺

活動計画・・・次回

● その他

・玉目哲廉氏、諸般の事情により退会

・＜10 月 30 日(木)・11 月 1 日(金)＞第 100 回全国図書館大会・東京大会開催。実行委員として出ている山口さんより、経過報告有り。詳細は次回。

・今年度の図書館友の会全国連絡会総会は、5月 17 日(土)大阪で開催。山口代表が出席。

● 定例会・曜日変更について

今年度の図書館協議会が、第4木曜日3時から5時まで開催されることから、すすめる会定例会を、協議会委員が参加しやすいよう協議会後に設定。6 月より第 4 木曜日の 6 時からに変更します。

・6月 26 日 ・7月 24 日 ・8月 28 日 ・9月 25 日、中集会室 17:00～19:45 予約済です。

あとがき 20 年という長きにわたる代表の責務からやっと解放された。頭の上の重しが取れたような気分である。といっても、新代表の山口さんは現役の大学の先生で、家庭では子どもの育児にも関わる超多忙な上に、健康状態も上々ではないため、代表を押し付けてしまったようで少々心苦しい。せめて籠にどっかり乗ってもらって、この1年は、草鞋を編んで籠を担いでという事で支えて行けたらと思っている。そして、やりたいことが悔いなくやれるよう、少しずつギアチェンジを試み、新たな船出をしたい。(M⁴)